

1. 研究主題

小・中学校における事務職員の運営委員会参加による学校経営上の効果と事務職員の人材育成 ～香川縣市町立小中学校事務職員人材育成方針を参考に～

高松市立山田中学校 主任 谷口 雄英

2. 研究の目的と動機

昨年度の実践研究では、小・中学校事務職員が運営委員会に参加することでもたらされる学校経営上の効果について明らかにした。日本教育事務学会の創立趣意では、「授業など直接子どもと向き合う活動以外の仕事を、『教育事務』と呼ぶ」と述べられているように、学校事務においても学校の在り方の変化とともに教育活動に携わるなど役割を変化していく必要がある。近年、複数の自治体で学校事務を教育事務や教育行政と名称変更して採用を行っている自治体が出てきているように、教育活動に事務職員も携わることで、今までよりもさらに教育効果を高めることができると考え、校長の学校経営に影響を及ぼす運営委員会参加を研究対象とした。その結果、課題として、事務職員の教員理解や参加意識の向上が挙げられた。運営委員会で行われる議題は、学校経営上すべての参加者に関係があり、事務職員も学校事務だけでなく教育活動等すべての議題にかかわることが重要である。しかしそのためには、教員理解や参加意識の向上とともに、教育事務に関する資質能力の向上が必要不可欠である。そこで今年度は、昨年度の課題解決に焦点を当て、共同学校事務室会議の場を活用し、香川縣市町立小中学校事務職員人材育成方針に基づいた研修機会を持つことで、事務職員の教育事務に関する資質能力を向上させることを目的に実践を行った。

3. 研究の概要

昨年度は、高松市立小・中学校運営委員会参加者の事務職員に対する意識実態調査、運営委員会参加による事例収集シートを用いた有効事例収集、研究協力校における運営委員会参加による有効事例収集などを行った。その結果、①従来の職務を生かした運営参画ができること、②教育事務職員として教育活動や学習環境整備などに直接的に携わるなど、学校教育目標の達成に寄与できること、③教員理解を通して、教育に対する考えや視点、さらには学校全体を見ることができ、学校の流れの把握ができることの3点が明らかになった。

そこで今年度は、昨年度出た課題解決のために香川縣市町立小中学校事務職員人材育成方針を参考に、高松市第6共同学校事務室において、研修機会を設け事務職員の人材育成に取り組んだ。内容は以下の通りである。

(1) 子どもたちや教育活動を主語としたコミュニケーション ～自己紹介を通してチーム学校の推進を～

事務職員も教員と同様に子どもたちの豊かな育ちを支援するために財務等を通じて職務に取り組んでいる。しかし教員はそのことを知らない方が多い。そこで事務職員が積極的に「子どもたちや教育活動を主語としたコミュニケーション」を取ることで教職員の相互理解を深め、さらなるチーム学校の推進につなげる。

(2) 学校教育目標と学校事務 ～学校教育目標を意識した事務室経営～

学校教育目標は、年度当初の職員会議等で周知され、しばらくは意識して職務に取り組むが、段々と忘れがちになってしまう。また事務職員の年間職務は、基本的に毎年同様のルーティーンワークであるため、活動の目的等が変更になっている場合も意識せずに行ってしまう。そこで教育目標を定期的に見返したり、管理職と教育目標を介したコミュニケーションを日常的に行ったりすることで、子どもたちの教育に資する事務室経営を行うことができる。

(3) リーダーシップとコミュニケーション ～自己成長のための継続的取り組みの重要性～

学校において教職員のコミュニケーションは特に重要である。しかし、様々な要素から話し手の「想い」と聴き手の「解釈」はズレることがある。そのことを知ることがズレを少なくするためには必要である。また自己の成長時には、できない自分を自覚する苦しい時期が必ずある。多くの人は、なかなかできないことで諦めてしまう。その時期を乗り越えることで意識せずとも自然とできる時が訪れる。

4. 研究の成果と課題

今年度実施したどの研修においても大切にすることは、コミュニケーションである。今までも教職員は、コミュニケーションをしっかりと取ってきたが、今後は、子どもたちを主語としたコミュニケーションを今まで以上に行うことで、より良いチーム学校を形成できると考える。そのためには、事務職員の資質能力の向上とともに、教員による教育事務に関する理解が重要である。また、チーム学校を推進するためにも、すべての学校において事務職員が運営委員会参加者の一人になることが必要である。